



日本の民謡なんてつまらない。
よくそんな声をきく。
しかし、ほんとにそうだろうか。

土の匂いや人々の生活がいきいきと感ぜられる日本の民謡を、私たちはどれだけ知っているだろうか、テレビやラジオでいき、四畳半のお座敷や旅行先の観光地できく民謡が、私たちの民謡のすべてなのであるか。もっと力強い、現代の若者の共感を呼びさす民謡がないものだろうか。

もしそうした疑問を全然もつことなしに、マスコミや観光地できくものだけを頼りに、日本の民謡はつまらないと頭から毛ぎらいしている人があるとしたら、音楽を愛する日本人としてこれ程不幸なことがあるだろうか。

△わらび座Vの十年の歴史と今度の舞台は、このような私たちの疑問に一つのヒントを与えてくれるに違いない。まず△わらび座Vをきき、みようではないか。その上で私たちみんなでもう一度考えよう――

- 構成・演出 松川晴次
- 飾山獅子 (おやまばやし) △秋田県
 - 鹿おとり △岩手県
 - ひなこけんばい △岩手県
 - 鬼剣舞 △岩手県

- 12日 松江市公会堂
- 13日 米子市公会堂
- 14日 出雲市体育館
- 16日 明倫小学校
- 18日 柏原高等学校
- 19日 豊岡市民体育館

労音 11月例会